

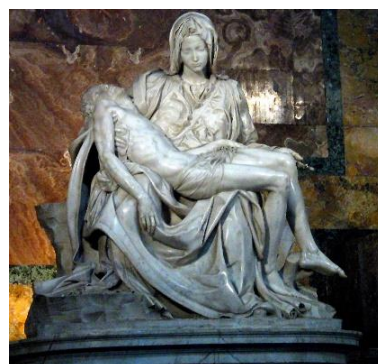


六甲カトリック教会 教会報

死者の日に寄せて

11月2日は死者の日と定められています。教会ではこの日、ミサを立てられ、過去一年間にご帰天された信徒の方々のために祈りをささげます。教皇フランシスコは昨年、新型コロナウイルス感染拡大のさ中、予防措置を厳重に講じながら、ごく控えめではありましたがミサを立てられたということです。六甲教会も昨年、コロナのもと当日は月曜日でしたが、とどこおりなくミサは立てられました。

先唱者が、亡くなられた方のお名前を一人ずつ読み上げられミサが始まると、厳粛な気持ちになり、またどこか懐かしい故人への思いがつのります。仏教や神道でいう合同慰霊祭と似ていますが、カトリックの死者の日の意味はどこか違うようです。それは生者との交わりがより深いということではないでしょうか。死者の日が諸聖人の日の翌日に定められているのには深い意味があるのです。カテキズムの一節に次のような文言があります。



わたしたちはキリストを信じるすべての者、すなわち地上で旅する者、自分の清めを受けている死者、または天国の至福に与っている者たちが、皆ともに一つの教会を構成していることを信じます。—後略—(カトリック教会のカテキズム 962) この文言のなかで、地上を旅する者とは生者、天国で至福に与っている者とは諸聖人を表します。すなわち聖徒の交わりは生者、死者を問わず諸聖人とともに常に営まれるということを明確に述べています。

古来日本の仏教の行事として、お盆に迎え火を焚いて先祖をお迎えし、お盆が過ぎれば送り火を焚いて、また極楽浄土へご先祖をお送りします。お盆の期間中は生きている者となくなったご先祖はやっぱり交わるのですね。いっぽうカトリックでの死者の日の生者と死者の交わりは、まさに教会そのもの。迎え火、送り火などのように個別のものではなく、またお盆という限られた期間に集約していないところが仏教と違うようです。永遠のお別れ、あの世、彼岸、というようなことばを振り切って、普遍的に聖徒の交わりがあるのだと言うことをかみ締めるのがカトリックの死者の日の意義ではないでしょうか。聖徒の交わり、罪の赦し、むしろ死者の日はよろこびの日なのです。(編集部)

画像はバチカンのピエタ像(ミケランジェロ)

今年の「秋の墓参【11月7日(日)】」は、春と同じように共同での墓参は行わず、納骨式のみを行います。※緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ先の状況が読めず、多人数が密集する形での集会の再開は時期尚早であると判断されました。

- ・納骨式は、10時のミサ後に行います。
- ・一般の方の当日の墓参は、ご遠慮下さるようお願いいたします。
- ・当日は、神父様による個人墓地の祝別も行いません。

2021 年度 第2回小教区評議会議事録（要約）

日 時:10月10日(日)13:30~14:30

場 所:第1第2会議室

出席者:アルフレド主任司祭、中村神父、西田議長、三垣・宗行両副議長、増田・大上両書記
財務部、三日月会、婦人会、教会学校、地区会、典礼部、宣教部、養成部、社会活動部、施設管理部、
広報部より各コーディネータ

1, 主任司祭より

ミサを1か月半ぶりに再開した。いまは感染状況が落ち着いているが、先が読めないので辛抱強く慎重に一つずつことを進める。皆の知恵を借りながら進めたい。

2, 報告事項

① 会計報告 2018、2019、2020 年度および 2021 年度上半期

緊急事態宣言下ではミサが行われなかったが、2020 年度の維持献金は安定している。

ミサ中止期間があったので主日の堂内献金は減少

② 宣教部講演会

松本信愛神父の講演「人のいのちの素晴らしさ」

録画を10月の主日ミサ終了後にモニターで放映した。

③ 2022 年度「活動計画と予算」を各部コーディネータは議長宛提出する。

締め切り11月20日(土)

3, 協議事項

① 黙想会(酒井司教)は11月13日(土)予定通り行う

② 祈りと音楽の集い 11月14日(日)14時から 入場整理券方式にて

③ クリスマスマサ 昨年と同様に細かく時間帯を分けて行う。

24日(金)15:00 16:30 18:00 19:30 21:00の5回

整理券配布は11月14日(日)よりの予定

25日(土)のご降誕ミサは7:00 10:00 11:30

④ 新成人祝福式と新年会

パーティは中止するので、それに代わる「お祝い」を検討。10月17日(日)の臨時地区役員会で討議。

次回小教区評議会は12月5日(日)13時より。

以上



2021 年度臨時地区役員会議事録(要約)

日 時:2021年10月17日 13:30~15:00

出席者:アルフレド主任司祭、小教区評議会議長、地区役員

1. 議題

1) 各地区のコロナ禍での現状報告

・高齢で持病のある方は外出を控えており、ミサを与かっている方やステイホームで体調を崩し外出できなくなった方がおられる。

・電話での連絡では不在の場合に連絡を取るのに苦労している。

・教会掃除の参加者がコロナ以前に比べ減少しており参加者の負担が増えている。

2) 今後のスケジュール確認

- ①教会大掃除 12月4日(土)9:00 (12月18日予備日)
- ②新成人祝福式のミサは 1月9日(日) 但しミサ後の祝福式・新年会パーティは中止
- ③「連絡網・教会行事予定表」配布日程
 - ・3月5日(土) 各地区の配布資料封筒入れ作業開始(宛名記載済封筒は教会事務が用意)
 - ・配布日 3月19日(土) 3月20日(日) 3月26日(土) 3月27日(日) のミサ前後
 - ・配布手順は、2月末に各地区役員にメール送信予定

3) 協議事項

「祝福式・教会新年会パーティの代わり」になるものを協議

- ①瓦煎餅(六甲教会名刻印)
- ②カレンダー(六甲教会名印刷)
- ③シナピス工場の製品(在日難民手作り製品)
- ①～③をプレゼントとして用意する案に絞られた。

上記報告に基づき小教区評議会議長団メンバーにて決定する。

4) その他

施設管理部より、教会掃除当番に落葉清掃の協力依頼があり、掃除参加者が少なく、対応困難な地区と対応可能な地区がある。協力可能な地区は協力することとした。

以上



教会大掃除のお知らせ

**12月4日(土)9:00より教会大掃除をいたします。
ご協力よろしくお願ひします。**

雨天予備日 12月18日(土)9:00～

地区役員代表 井川 直哉



ふれあい広場 再開

社会の谷間にいる人々をいろいろな分野から支援しているボランティアグループの出店の場である「ふれあい広場」が11月より再開します。以前はイグナチオホールで第3日曜日の10時ミサ後に行われていましたが、今回からは聖堂入口外のところで不定期に10時ミサ後と11時半ミサ前の間に開きます。但し、今の時点では密集を避けるために1グループずつ出店します。どうぞ皆様のご支援ご協力を以前と相変わらずよろしくお願ひ致します。
(社会活動部)

日本カトリック正義と平和全国集会 締め切り迫る！

これからのよりよい社会をみんなで考えていくよい機会です。難民問題、子どもの貧困、ゴジラからみた正義と平和、教会内のハラスメント、環境問題など、30の分科会の中から好きなものを選んで Zoom で発題者のお話を聞く会です。もちろん質問もできます。分科会の内容が詳しく書かれた案内パンフレットが事務所にありますので、関心のあるかたはお取りください。締め切りは11月10日です。掲示板ポスターもご覧下さい。
(社会活動部)



2020年7月16日コロナ禍の中、将棋界には偉才が現れました。史上最年少記録(17歳11か月)で棋聖戦に勝ち、タイトルを獲得しました。また2021年7月3日タイトル防衛と九段昇格を決めました(18歳11か月)。いずれも史上初です。

私の将棋は小学校低学年のころ縁台将棋と言って父親を相手に1日4回も5回も挑戦したものです。高学年になると父親にも近所のおじさんにも負けないようになっていました。

その後は草野球、高校野球と外での運動に代わっていきました。

将棋に再会したのは教会の壮年会の行事、囲碁将棋の会でした。当時桜井主任司祭が信徒の交流の場の一つとして認めてくださいました。月に一度土曜日の午後3時間は情報交換、ボランティア活動、小さな手伝いなど楽しみでした。振り飛車戦法、美濃囲いが得意でしたが、今の若い棋士はコンピューターで修行して強くなっているそうですね。今はジム通いですが、週に1回程度マスクをして将棋をしています。早くコロナが終息して普通の日常がもどるといいですね。



今月の聖人 11月

☆ツールのマルティヌス



4世紀の人。殉教なしに列聖された初めての聖人とされています。父と同じ軍人でローマ帝国の兵士であった彼は、ある大雪の日、震えている物乞いに、着ているマントを半分に裂いて与えたところ、その物乞いはイエスキリストであったという縁で聖職者になったというエピソードの人物です。当時のガリア地方(主に現在のフランス中西部、ツールはこの地方の中心地)で修道生活を送り、ヨーロッパ最初の修道院とされるリギュジェの修道院を創設しました。記念日は11月11日で収穫の時期にあたり、ワインやぶどうの守護聖人としてあがめられています。ボージョレ・ヌーヴォー解禁は、現在11月の第3木曜日ですが当初はこの記念日の11日を解禁日としていたそうです。マルティヌスはマルティノとかマルティン、マルタンなどと表記されることがあります。なお、聖マルティノ・デ・ポレスという別の聖人が居てこの人は16世紀の南米ペルー出身の人で別人です。画像は17世紀の画家ヴァン・ダイクの「マントを分け与える聖マルティネス」(詫洋一記)

《図書室からのお知らせ》

パパ様の新回勅「Fratelli tutti(兄弟の皆さん)」の邦訳が入りました。

回勅 兄弟の皆さん 教皇フランシスコ カトリック中央協議会



愛は普遍的な交わりへとわたしたちを向かわせます。

愛はそのダイナミズムによって、ますますの寛容さ他者を受け入れるいっそうの力を求めます。

利己主義による分断が進み、他者の苦しみを顧みない現代社会を具体的に検証し、開かれた世界を築く道筋を希望をもって提言する。イスラームの指導者との対話から刺激を受け執筆された、兄弟愛と社会的友愛に関する回勅。 —— 本のオビより

私たちの生き方を変える一冊！ 世に在って、またコロナ禍に覆われる今、対話を武器に兄弟のような世界をつくるというフランシスコ教皇らしい —— 酒井司教様の紹介文より

《お願い》 教会に図書を寄付・寄贈される方は、信者や教会図書室利用者に、その図書の推薦文や、教会図書室に相応しい旨のアピールを添えて事務所にお申し出ください。またお気づきのこと、希望の図書等ご遠慮なくお知らせ下さい。

◆聖者と死者とを仰いで◆

私たちは教会の典礼で、11月1日に諸聖人の日を祝い、翌日の2日に死者を祈念する。しかし教会の公式の聖人は、その認定に長く厳しい審査が求められ、私たちにそれほど近く親しい存在ではない。しかし死者ということならば、多くの場合は私たちと生活を共にして数多くの関わりを持った人々である。当然ながら、数々の欠点や歪みを持った普通人だった。それだけに私たちの哀惜の情もひとしおといえる。

珍しくもこの間は次兄を手伝って、数日にわたって長峰墓地で汗水を流した。慣れない仕事で、今もって手首が利かず少し重い物を持つと取り落としそうになる。この中村家の墓には、両親をはじめ姉と二人の妹も葬られている。あそこから下界の眺めは最高だが横から太陽がまともに照り付け、多くの階段と落差があってほとんど一輪車は使えない。膝をついたり屈んだり運んだり、普段は箸より重い物を持たない生活であるから、そぞろ老齢の悲哀を味わった。しかし次兄は三歳上であるから、嫌でも頑張らざるを得ない。しぶとく生え繁る雑草を何とか防ぐために、隣にはみ出す硬い植木を4本とも抜き取り、盛り上がった土をはねて下地にコンクリートを打ち、その上に小石を敷き詰めることにした。かなりの労働で私も何とか少し手伝ったが、二人でやると意外と捗る仕事もあり、私はもっぱら助手に徹して道具を手渡したりするばかり。それでも、あれほど疲れ切ってしまったのだ。それにつけても、家族の血の繋がりの深さに改めて驚き入った。我が身を顧みて、父母から知らないうちに受けたシツケや物差しや人柄の強力さに気づき、また姉妹と生活を共にしながら得た数々の思い出が新たに蘇り、実に貴重な恵みの時だった。目前で黙々と働く次兄の姿も因縁の多さも、身内ならばこそその想いが深められた。生得のものとは、生まれなが

らに当人に備わったものを指すのだろうが、家族や友情という関わりでは遺伝も生得も区別できない。両親・兄弟姉妹・祖父母あるいは恩師や友人はたとい既に亡くなって久しくとも、関わりがあった人々や世代に重大な影響を与え続け、在世中よりもさらに生き活きと活動しているのではないか。

最近になって、もう誰も管理しなくなった荒れ果てた個人墓地が増えていると聞く。また中村家でも誰が次にこの墓を世話するのかとなると、先行きは暗い。両親と深い関わりがあり面識があった者という、実子やその配偶者、次いで孫たちに限られる。しかし現実問題として、大して関わりの無かった孫たちの世代に多くを期待できないのではと懸念する。この度の墓地での労働を通じて、嫌でもいろいろ感じた事がある。先ず自分としては、樹木葬や海や山また大地に還ることを優先する（残念ながら、イエズス会は既に所定の場所を持っているが）。家の権勢や富裕を誇るかのような墓は、まさに笑止千万である。むしろ生きて苦しみ迷う私たちのために、死んだ先人たちが今も働き努めている事実を信じて認め、逝った死者との関わりや御縁を大切にしたい。その意味では、永遠の安息に入るとか永眠するとかの言葉そのものが不適切である。まるで死者は眠るばかりで何もすることが無く、現世で四苦八苦して生きる私たちとは何の縁もゆかりも無い者と切り捨てているかのようだ。むしろ彼らは死後の今こそ、神と共に上から内から働き努め、願い導いているのではあるまいか。心を尽くして亡くなった先人たちと心を通わせ、むしろ恩人として、人生の大先輩として彼らの励ましや諫めに聞き従いたいものだ。

合 掌

【 2021 年 11 月 予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	諸聖人 ミサ 7:00 10:00	死者の日 ミサ 7:00 10:00	教会受付休み (文化の日)		初金曜日 ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 ◎灘北2・阪神	
7	8	9	10	11	12	13
年間第 32 主日		ラテラン教会の 献堂			◎灘南・神戸西	
14	15	16	17	18	19	20
年間第 33 主日 貧しい人のための 世界祈願日					◎灘西・中央	
21	22	23	24	25	26	27
王であるキリスト 聖書週間～28 日		教会受付休み (勤労感謝の日)		◎定期清掃		
28	29	30				
待降節第1主日		聖アンデレ使徒				

◎は掃除当番地区です。

【 11 月 主日 ミサ 予定表 】 ※ミサの日程については教会からの最新の情報にご注意ください

日	時	地区(グループ)	日	時	地区(グループ)
11月 6 日(土)	18 時	地区を問わず	11月 20 日(土)	18 時	地区を問わず
11月 7 日(日)	7時半	地区を問わず	11月 21 日(日)	7 時半	地区を問わず
11月 7 日(日)	10 時	第 1 グループ	11月 21 日(日)	10 時	第1グループ
11月 7 日(日)	11 時半	第2グループ	11月 21 日(日)	11 時半	第2グループ
11月 13 日(土)	18 時	地区を問わず	11月 27 日(土)	18 時	地区を問わず
11月 14 日(日)	7 時半	地区を問わず	11月 28 日(日)	7 時半	地区を問わず
11月 14 日(日)	10 時	第2グループ	11月 28 日(日)	10 時	第2グループ
11月 14 日(日)	11 時半	第 1 グループ	11月 28 日(日)	11 時半	第1グループ



教会報は来月号（12月号）でちょうど600号を迎えます。
記念号として少し晴れやかな紙面を考えています。ご期待ください。

<p>次回 12 月号の発行は、11 月 27 日(土)です。 原稿は毎月 15 日ごろまでに教会受付へ直接ご持参 いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様 からの原稿をおまちしております。あわせてご意見も お寄せください。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp ★広報部員大募集！興味のある方は事務所まで。</p>	<p>六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 Email renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部</p>
---	---